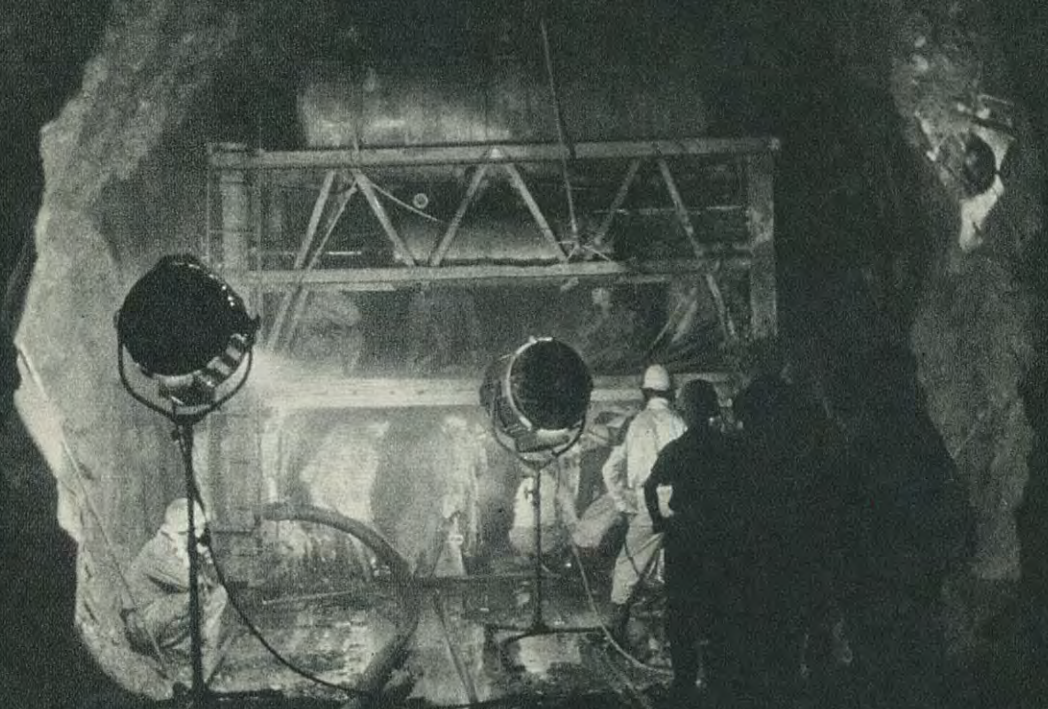


# 順調に進工する 兼見トンネル



本年1月着工した愛知用水幹線中最大の構造物である延長 5,136mの兼見トンネルは、その後まことに好調の進捗ぶりを示している。本坑の1日平均進捗は18m~20mで、すでに800mを掘進、工程進捗は23%に達している。8月10日頃からコンクリート巻立も開始されるが、非常に複雑な地質のもとで各種の工法を採用しながら、着工以来無事故というのは賞讃に値するであろう。本号では第1号区間における全断面掘削の状況を紹介する。

(写真は1号区間の本坑で10ブームのドリルジャンボによる全断面掘削)

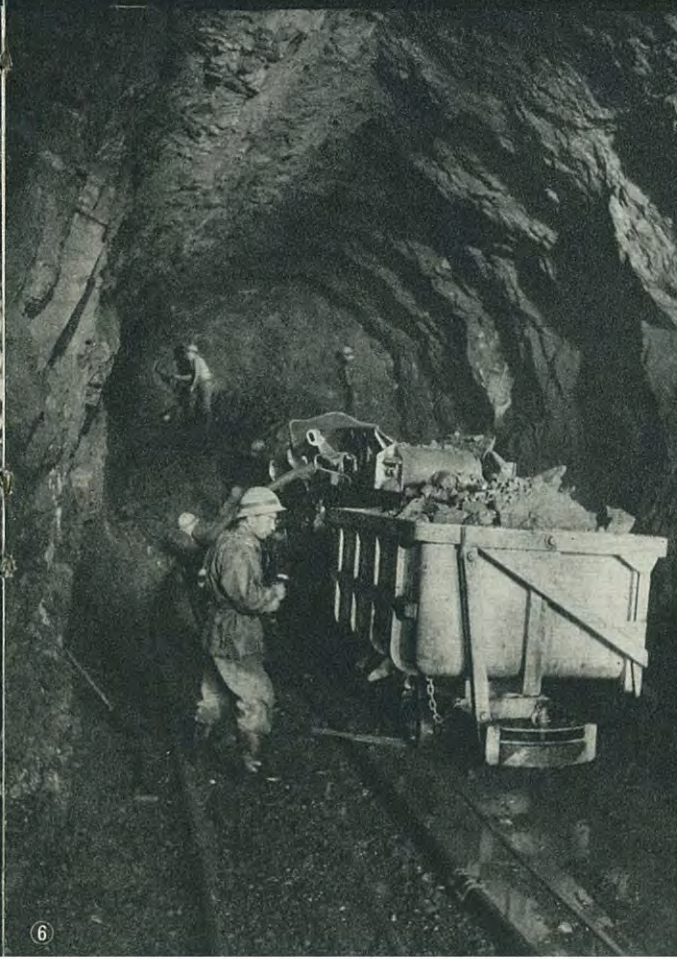
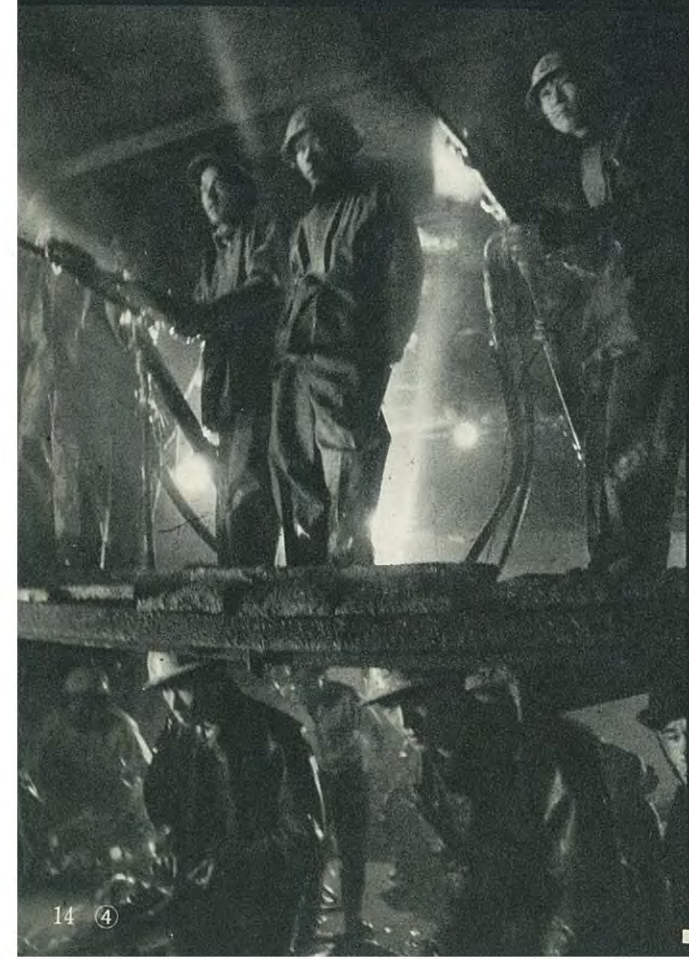
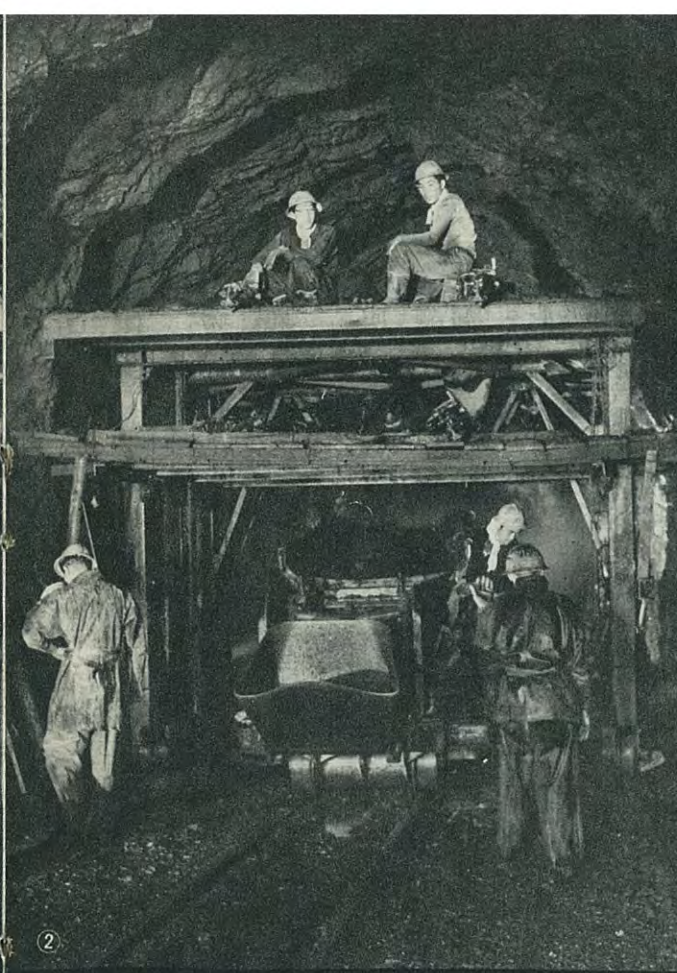
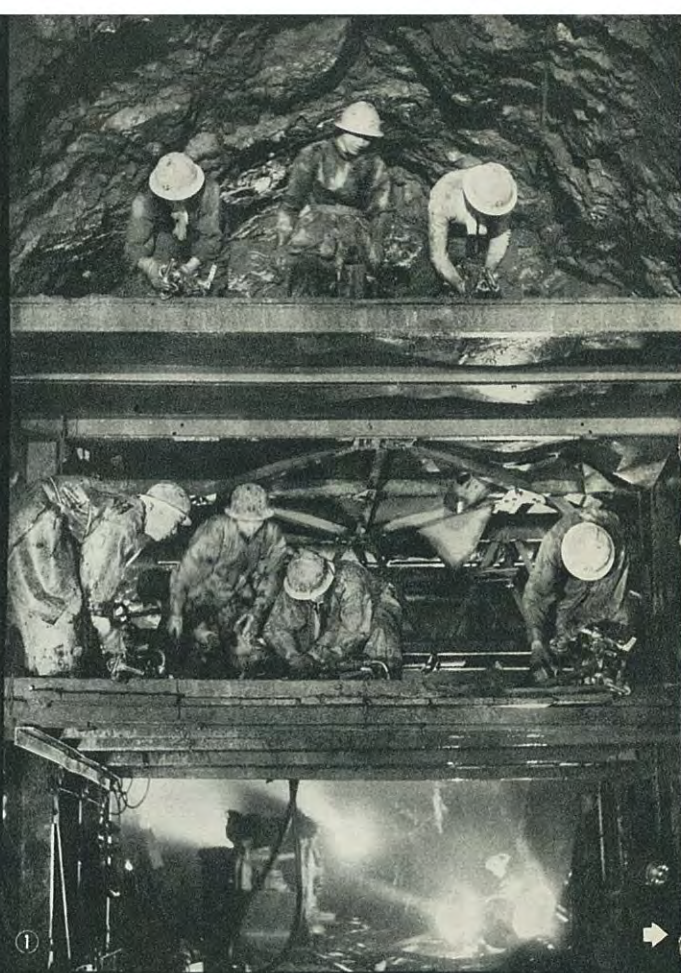
# 全断面掘削

## —兼見トンネル—

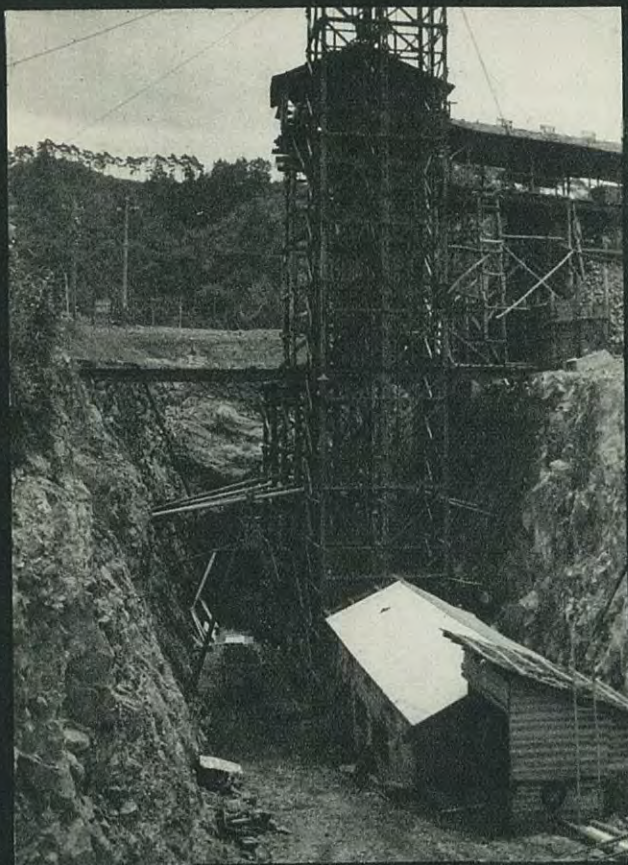
兼見トンネルの1号区間(延長3,117m)は、10ブームのドリル・ジャンボによる全断面掘削工法が採用されている。地質が古生層の硬岩であるからこの工法が適当しているのであるが、これが終点付近の4号区間になると砂礫層で湧水も多く、原始的な手掘で掘削されている。だから始点から終点にくると、私たちはジェット機から昔のカゴに乗り換えたような気がする。以下は全断面掘削という最新のトンネル工法の御紹介。

### 写真説明

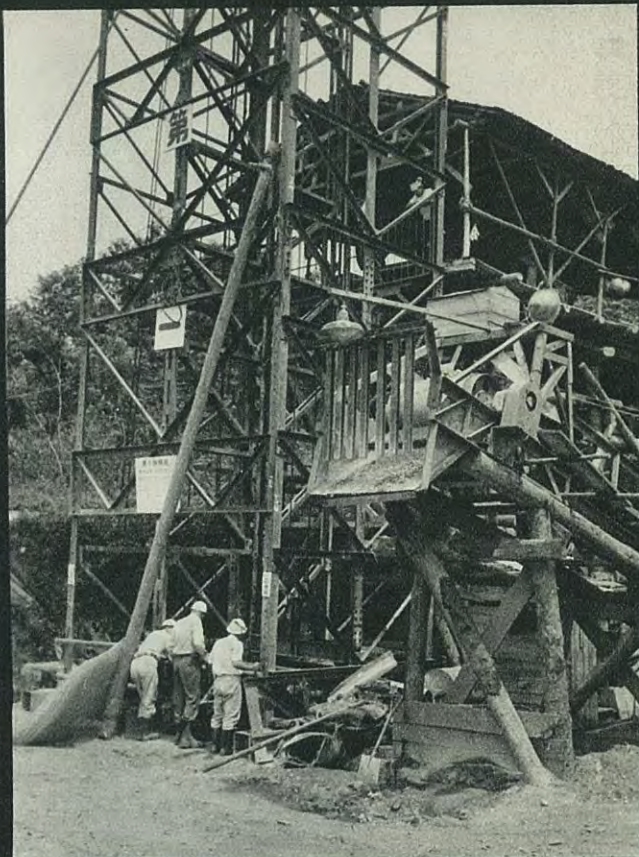
- ① ジャンボにレッグ・ドリル10台を据付ける
- ② 据付けをおわるとロッカー・ショベルがこれを切羽まで押してゆく
- ③ ジャンボ活動
- ④ ドリルをにぎる坑夫、百雷が落ちたかと思われるほどの轟音とガス。胆玉の小さい人はおそろしくて逃げ出してしまう。(このあとハッパ)
- ⑤ 爆破されたズリをロッカー・ショベルがすくって後のトロに積み込む
- ⑥ ロッカー・ショベルに押されてゆくトロ
- ⑦ ズリを満載したトロは5・6台連結され機関車がけん引して坑外へ……



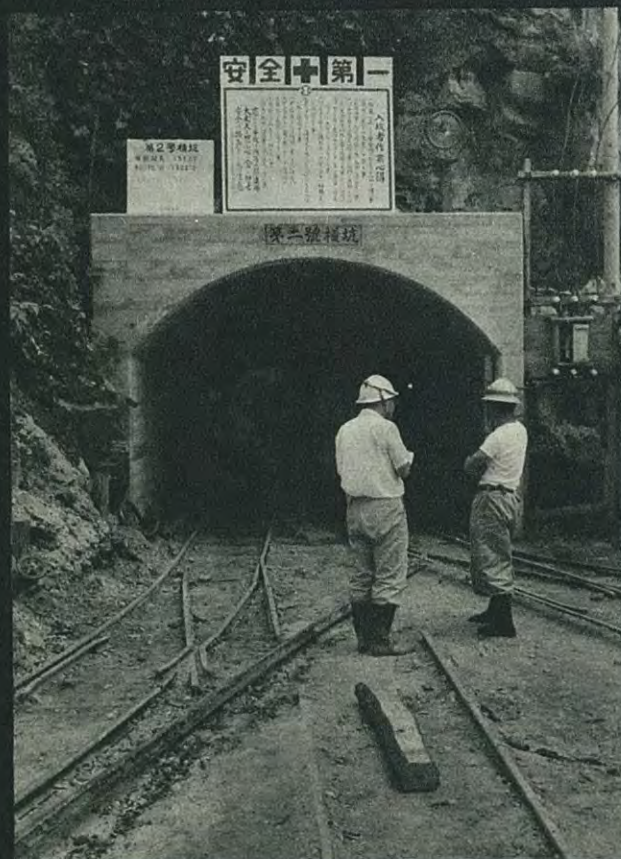
# 兼見トンネルの各坑入口



木曾川に面した取入口（始点）



第1横坑入口、豎坑なので人も材料もエレベーターで昇降する



第2横坑入口、横坑とはいえ立派なもの



出口、導坑入口であるが、ここは砂礫層で湧水も多く施工最も困難な区間